

| 教育目標        |                      | のびのびと力いっぱい活動する子どもの育成   |  |   |       |   |   |  |
|-------------|----------------------|--|--|---|-------|---|---|--|
| 重点目標        |                      | 1、自発的に活動する意欲を高める保育を実践する。<br>2、一人ひとりの発達を捉え、身体を動かす心地よさを味わえるような状況作りを行い、心身共に健やかな成長に努める。<br>3、家庭、地域、小学校、中学校、未就園児など共に育ち合う教育内容の工夫に取り組む。 |  |   |       |   |   |  |
| 項目          | 重点項目                 | 具体的施策  | 達成目標   | 自己評価  | 成果と課題 | 改善策   | 学校関係者評価   |  |
| 学力の向上       | 自ら学び考える力を育む教育の推進     | ・子どもたちの自発的に活動する意欲を育成する。<br>・保育力の向上と改善をめざした研究をすすめる。   | ・自発的に活動しようとする意欲が高まるように、運動遊びを視点として保育に計画的に取り組む。<br>・各学期1回以上、全職員が保育を見合う園内研修を進める。  | ・運動遊びを短期指導計画の中に取り入れて進めると共に、定期的に見直しPDCAサイクルで取り組む。<br>・教職員アンケートで「園内研修で保育力向上につながる学びを得た」と答えた割合が8割を超える。                    | B     | ・短期指導計画の様式に運動遊びについての「実態把握」と「今週の計画」を位置づけて取り組んだ。<br>・学期に1回と夏期休業中に園内研修を行った。アンケートの回答ではA,B合わせると100%であった。                                     | ・今年度、短期指導計画の中に取り入れ実践したことを各学年で出し合い、24ヶ月を見通した表にまとめて次年度の実践に活かせるようにする。                                    | ・様々な行事を重ねるごとに、子ども達がそれぞれの役割を自覚し、自発的に活動する姿が多く見られた。                                 |
|             | 子どもたちの個性や能力に応じた教育の推進 | ・一人ひとりの心身の発達を捉えた教育を推進する。   | ・子どもの一人ひとりの発達段階について実態把握する。<br>・発達を捉えた運動遊びを継続的に行う。  | ・子どもの発達について運動の視点で実態把握をする。<br>・子どもの身体の動かし方に変化が見られる。  | A     | ・立位、片足バランス、歩行について共通理解した視点に基づき実態把握を学期ごとに行った。その分析により、子どもの身体の動かし方に変化が見られた。   | ・実態からわかった発達を捉えた運動遊びを実践していく。   | ・子ども個々の身体の柔軟性、バランス感覚等が成長し、その成長が表現遊び等、様々な要素を含む学びにもつながっている。                        |
|             | 特別支援教育の推進・充実         | ・特別支援教育コーディネーターを中心として、継続した専門機関との連携から、一人ひとりの良さや違いを認め合い、共に育つ特別支援教育に努める。  | ・子どもの育ちを捉え、個別の指導計画や個人記録を作成すると共に、巡回相談や医療相談、言葉の支援教室等の専門講師からの助言を具体的な支援内容や方法に活かしながら職員間で共通理解を行い実践していく。  | ・関係機関の活用や保育の工夫により、個別の指導計画にあてた目標を達成させることや、互いに認め合い、共に育ち合える学級経営を行う。  | A     | ・巡回相談、医療相談、言葉の支援教室、病院など様々な関係機関と連携し、特別支援教育に取り組んだ。そのため、それぞれの違いを認め合いながら育ち合う保育の実践が出来た。  | ・コーディネーターが中心となり、他機関との連携を活用した教育の実践に取り組む。   | ・子どもの姿から一人ひとりを大切に、共に育ち合う教育がなされていくと捉えられる。   |
| 豊かな心・健やかな体  | 豊かな心を育む道徳教育、情操教育の推進  | ・すこやかネットまつさき10箇条を活用した心の教育をおこなう。<br>・子どもの人権や子育てを振り返り、人権について考え合う。  | ・毎月の目標を保育の中で意識して取り入れる。<br>・子育てや自尊感情、一人ひとりを大切にすることなどに視点をあて、保護者同士が意見を話し合う機会をつくる。   | ・教職員アンケートで「毎月の目標を意識して保育に位置づけ取り組みたい」と答えた回答が8割を超える。<br>・子どもや保護者自身の自尊感情に視点をあてたパースデークや、人権に視点をあてた学級懇談会を計画的に行う。             | B     | ・アンケートではBの回答が80%であり、目標は達成した。<br>・各学年の保護者の実態に応じてパースデークや学級懇談会を計画的に行うことが出来た。   | ・保育の取り組みや具体的な子どもの姿を伝えながら、より家庭と連携して豊かな心が育まれるための取り組みを進める。<br>・来年度もポイントを明確にしたパースデークや学級懇談会の取り組みを続けていく。    | ・今後も、心の教育を引き続き、家庭、地域と連携しながら、進めてほしい。  |
|             | 子どもの健やかな体づくりの推進      | ・早寝・早起き・朝ごはんを定着させ、基本的な生活習慣を確立させる。<br>・身体を動かす心地よさを味わう保育をすすめる。   | ・けんこうカレンダーやレッドコート検査、食育研修会など、保護者と共に取り組む機会をもつ。<br>・律動やダンス、鬼ごっこ、ルールのある遊び、挑戦する遊びなど身体を楽しく動かす活動を仕組む。   | ・アンケートで「子どもの基本的な生活習慣確立に向けて家庭で意識して取り組んでいる」と答えた回答が8割を超える。<br>・各学年の段階に合わせて、友だちと楽しむ運動遊びや、自分で挑戦しようとする運動遊びに取り組む姿を年度当初より増やす。 | A     | ・アンケートでは、肯定的な回答が90%以上を超えた。<br>・運動遊びについては、各時期ごとに子どもの姿に応じて計画的に取り組み、長期休業中に親子で運動遊びに取り組んでもらう啓発を行ったことで、運動遊びに積極的に取り組む幼児が増えた。                   | ・引き続き家庭と連携し、生活習慣の確立、運動遊びを共に継続して進めていく。   | ・子どもにとって適切な食事はとても大切なものである。食べることで活動、成長に大きな影響を与える。身体を動かすことと共に、食も引き続き家庭と連携をはかってほしい。 |
|             | 保護者との連携              | ・運動遊びの重要性や絵本の読み聞かせについて家庭への啓発を行い、家庭で子どもと向き合う時間の推進をする。<br>・全保護者と子どもの育ちについて共有する。  | ・よみかせカードの取り引きを継続し、引き続きよみかせカードを提示し保護者啓発を行っていく。<br>・運動遊びの重要性を実感してもらえるようなアンケートやプリント、保育参観を実施して啓発していく。<br>・れんらくちょうの活用と、クラス集団としての育ちや、教育の内容がわかりやすいクラスだよりの発行を行う。 | ・アンケートの中で各家庭で読み聞かせや運動遊びで子どもと向き合うことの大切さを感じるとう答えた回答が8割を超える。<br>・子どもの育ち、園での教育がわかりやすいクラスだよりの工夫を行う。                        | A     | ・アンケートではA、B合わせて90%以上の回答であった。しかし、読み聞かせ、運動遊び共に取り組む時間や機会は家庭によって差が見られる。<br>・クラスだよりに関する保護者アンケートでは、「わかりやすく書かれている」という設問に対しA、B合わせて90%以上の回答であった。 | ・園庭開放や絵本室開放の活用、よみかせカードの取り組みについて、引き続きその意義と共に呼びかけていく。<br>・園全体の取り組みと共に、各家庭に応じた取り組みやすい工夫を保護者と連携しながら進めていく。 | ・れんらくちょうの活用、また、登降園時における保護者とのコミュニケーションにより、家庭と園との連携を丁寧に行っている様子が見られた。               |
| 開かれ信頼される学校園 | 園情報の積極的な発信           | ・園外へ積極的に園情報を発信する。<br>・自由参観や園庭開放、幼稚園フェイクをすすめる。<br>・門外の掲示板設置を進める。<br>・HPの更新を進める。   | ・毎月1回および行事前に案内掲示を行う。<br>・案内掲示や保育公開等が昨年度より情報を発信する。<br>・月3回以上更新する。   | ・案内掲示や保育公開等が昨年度より情報を発信する。<br>・月3回以上更新する。  | A     | ・門外や園玄関内の案内掲示を定期的に行い、情報発信に努めることが出来た。<br>・月3回以上更新することが出来た。   | ・引き続き、視覚的にわかりやすい情報発信の工夫に取り組んでいく。  | ・門外の掲示板の設置は、来年度進めていくようにする。<br>・園の教育について、地域、評議員の立場からも発信していくことが有効である。              |
|             | 地域との交流               | ・地域の幼稚園として、いろいろな地域の方とのかかわりを深める。<br>・小学校、中学校、未就園児など地域と共に育ち合う教育内容の工夫に取り組む  | ・県民まちなみ事業や、苗圃を活用する会の地域ボランティアの方、地域の会の方との交流の機会を持つ。<br>・未就園児、小学生、中学生と園児が交流する機会をもつ。  | ・今年度新たに身近な動物の話題から生命の大切さに気づく機会を通して、地域の方との関わりが持たれた。<br>・未就園児への積極的な園庭開放や自由参観などに取り組む。                                     | B     | ・今年度新たに身近な動物の話題から生命の大切さに気づく機会を通して、地域の方との関わりが持たれた。<br>・未就園児への積極的な園庭開放や自由参観、小学校・中学校との例年の交流に加えて、小学校のラリーや長縄大会を見学に行くなど交流が増えた。                | ・地域幼稚園として、つながりを深められる機会を今後も保育に位置づけていく。<br>・今年度立てた年間計画を基に、積極的な幼小連携を推進していく。                              | ・小学校、中学校、地域とかかわり、異世代が交わり、地域で成長することが実感できる教育がなされていた。                               |

学校関係者評価総括  
 ・数年の実態をもとに、重点目標を明確にし、達成の為の工夫が丁寧に行われていることが、子どもの成長につながっている。

次年度に向けた重点的な改善点  
 ・一人ひとりに応じた心身の発達についての研究を通じ、家庭、地域と連携した教育を進める。  
 ・小学生、未就園児とのかかわりを保育に位置づけ、計画的に取り組んでいく。